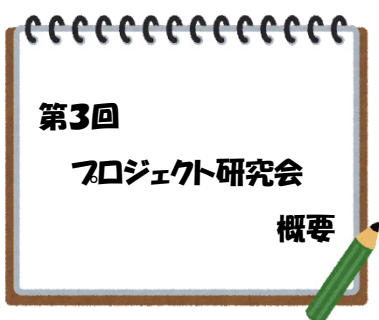


校内研究活性化プロジェクト研究通信

第4号 令和5年(2023年)7月25日発行

いよいよ本格的な夏の到来を感じるこの頃ですが、御機嫌いかがでしょうか。プロ研通信第4号では、7月7日(金)に開催した第3回校内研究活性化プロジェクト研究会での研究委員のみなさんの様子をお伝えします。1学期が終わろうとしているこの時期、校内研究にとってはここまでの取組を振り返り、2学期以降に研究主題に大きく近づいていくためには大切な時期です。研究委員のみなさんが自校の校内研究を「自分事」として捉え、校内研究活性化のため、真摯に取り組まれている姿勢が各校の教員のみなさん一人ひとりに伝わるように、心から応援しています!



第3回のプロジェクト研究会のめあて

校内研究を活性化するための
ポイントを整理し自校の取組に
生かそう!

先進校の取組に学ぶ

13:20～A中学校の校内研究会におけるグループ協議に学ぶ

昨年度の実践校であるA中学校の校内研究会では、研究主題に迫る5つのグループをつくり、教員一人ひとりが希望のグループを選んだうえで設定した課題から、10の小グループが編制されました(プロ研通信第3号参照)。今回はそのうちの2グループの協議の様子を視聴しました。

研究委員のみなさんは、「A中学校の先生方はみんな、自分の課題を具体的に設定しておられることがすごい!」と口を揃えておっしゃっていました。

A中学校のグループ協議の様子からは、教員一人ひとりが「自分事」として校内研究を捉え、一年間の見通しと取組の方向性を明確にもたれていることがうかがえました。研究委員のみなさんは、グループ協議の様子を御覧になりながら、御自身の学校の実態や校内研究の進捗状況を踏まえ、いかに自校の校内研究活性化につなげていくことができるかを考えておられる姿が印象的でした。



「グループ協議」の様子から学ぶ研究委員

※黒字は動画を視聴した研究委員のみなさんの気づきや学び。赤字、青字は黒字に対する自校での取組・価値付け。

校内研究活性化のポイント

主体的な姿勢

- ・自分の課題をきちんともっている。
- ・具体的な生徒の課題を把握しているから、テーマを決められる。
- 小学校ではどう生かす？
→同じように話してみれば、もっと似た解決法が出てきてよいのでは？
- ・（これまでの校内研究の流れを）知っている人がいるとよい。
- ・先輩から気楽に「見に行こう」と声掛けができていく雰囲気がよい。
- ・グループテーマを具体的にしているので話しやすい。
→自校で同じように、夏休みにやってみようかな。

個別最適な学び

- ・個人の学びをすごく大切にしている。
そのことで、グループの学びをきちんと個人に返すことができている。
- ・自分の失敗談を伝える中で、解決策を見出すことができていた。
→自分事として取り組める

継続的な学び

- ・昨年度の課題を基に今年度の課題を決めている。
- ・考えていることをみんなの前で宣言してすごい！
- ・学びに連続性がある。

協働的な学び

- ・テーマを練り上げる時間を十分に確保している。
そのことで、同じ課題意識をもつことができている。
- ・グループ構成（年齢など）も工夫されている。
- ・このあと、どうまとめているのだろうか。

「新たな教師の学びの姿」の視点でまとめたグループ協議の内容（当日の記録を基に作成）

14:20～ A中学校の校内研究主任へのインタビューから学ぶ

校内研究主任のインタビューからは、校内研究主任として校内研究を活性化させるための働きかけをたくさん見つけました。

KJ法を用いてポイントを整理しながら、各校での取組を踏まえて協議が進んでいきました。研究委員のみなさんが挙げられていたポイントを以下のようにまとめました。

実際の通信では、研究委員がまとめた校内研究活性化のポイントをまとめたものを写した写真を掲載しました。

研究委員がまとめた校内研究活性化のポイント

〈A中学校の校内研究活性化のポイント〉

- ①方法知としての「A中スタンダード」の導入
内容知としての校内研究主題の設定
→この2点で共通実践を可能としている。
- ②授業参観の目的をはっきりさせる。
授業参観は個々の課題解決のヒントとなる。
- ③自分事として校内研究に取り組める。
自己分析を進めることで、自分事として校内研究に取り組む。そのことで一人ひとりに主体性が生まれる。
- ④ICT機器を活用しながら協議をする。
- ⑤校内研究の成果を子どもの姿から見取る。
- ⑥全校体制で取り組める組織づくり
役割を明確にし、分担することで負担感の軽減や当事者意識を芽生えさせる。

6月までの取組を振り返って

令和4年度校内研究活性化プロジェクト研究の成果物である「共通実践」レビューシートを基に、「校内研究実践」レビューシートと改編して使用し、各校の6月までの校内研究の取組を省察しました。その後、取り組まれた事例を基に交流し、7月以降の各校の実践に生かせるように、校内研究の改善案を考えました。

「校内研究実践」レビューシート 記入日 7月7日(金)

(部会) 実践者()

【校内研究を通して目指す教員の姿】

○ 自ら進んで、〈研究の視点〉の探求を促し、実践を

【校内研究で目指した教員の姿】 (7月7日 時点)

△ 6月までに 〈研究の視点〉の探求を公開し、学習者

【具体的な実践内容】 (実践期間…)

○ 6月、公開発表強化月間(4週) (種別別) ○ 横断的アプローチ ○ 勾引法
 ○ 6月以降、毎時調査の内容をアンケートで生徒の分析をスタート ○ 個別指導(個別化)
 ○ 市立図書館(各教科の先生)が、自分の研究の視点と目標を公開し、交流する。

【実践の成果と課題】

教員の具体的な学びの姿	成果
<ul style="list-style-type: none"> 公開発表を通じて「発表者観」の交流が促された。 書き、発信の過程での公開発表が促された。 GWの前半で話し合、話し合が促された。(期間別) 生徒のアンケート(声)の回答が課題としてある。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月の発表の質が向上した。 次回以降の発表で発表者観が促された。
<p>〈指導的視点〉 - 教員主体の学びで学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで進出 (説明) 自覚、自信、主体的 自ら進んで進出 (説明) 自覚、自信、主体的 目的意識の向上 (説明) 自覚、自信、主体的 関係性の向上 (説明) 自覚、自信、主体的 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表者観の向上、生徒の発表の質の向上 発表者観の向上、生徒の発表の質の向上

★★★★★★★★★★★★ 改善策★★★★★★★★★★★★

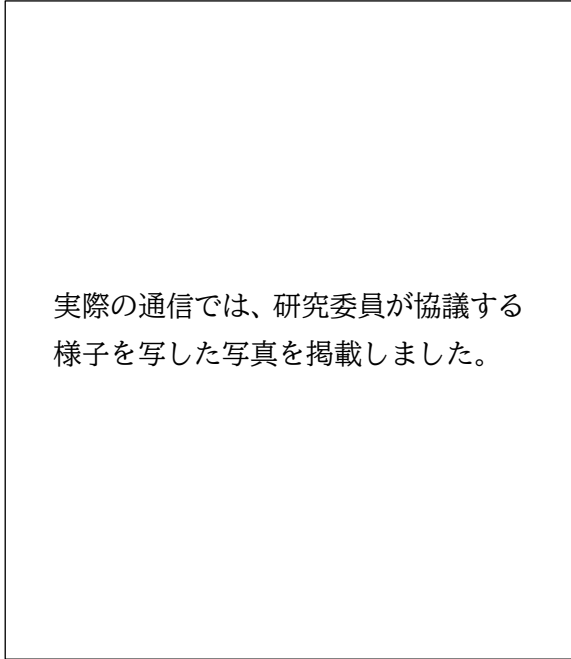
☆ 次の実践で目指す教員の姿 (自ら進んで進出、自ら進んで進出)

△ 公開発表の質が向上し、発表者観が促された。

☆ 次の実践内容 (実践期間… 6月(2学期))

○ 11-12月の発表 (個別化を促す)

○ 生徒の発表の分析、発表 (公開発表を通じて)



研究委員のみなさんは、自校の校内研究で実践されたことの成果と課題を整理しながら話されました。5校それぞれの実践を聞きながら、自校の実践に取り入れられるところは積極的に取り入れていこうとする姿勢は正に「主体的な姿勢」そのものでした。各校の「校内研究実践」レビューシートは別紙として添付しますのでぜひ御覧ください！



みなさんの「校内研究実践」レビューシートを拝見すると、「改善策」の欄には2つの共通点が見られました。

- ① 校内研究を「自分事」として捉える
- ② 校内研究で取り組んだことを日々の授業に生かす

校種や学校規模が異なる5名の研究委員のみなさんが、自校の現状を踏まえて考えられた改善策の中に、共通してこれら2点が書かれていました。つまり、この2点は校内研究を活性化させるうえで、必要不可欠な要因であるといえるでしょう。



◇はじめに

今年度の校内研究開始から3か月ほどですが、それぞれの学校の状況、子どもの課題、今年のメンバーに合わせて、工夫した実践が行われていますね。校内研究を自分事にし、日常の授業から、みんなが力に変えていけるような方法を練っておられることに感心しました。

◇校内研究を活性化させる大切なポイント

①校内研究を自分事として捉えること

自己決定、自己存在感、効力感

図1

自分事

多様性を考慮しながら
→経験、持ち味が生かされること

校内研究を自分事として捉えるということには、自分で決定したり、選んだりすること(自己決定)、自分が話合いの糧になっていると感じられること(自己存在感)、自分が話したことが自分やみんなにとってプラスだと感じられること(効力感)が必要ですね。そこには経験、持ち味、多様性が尊重されるということが大切です(図1)。

共感的人間関係

図2

同僚性

強みも課題も話し合える
→何でも言い合える関係

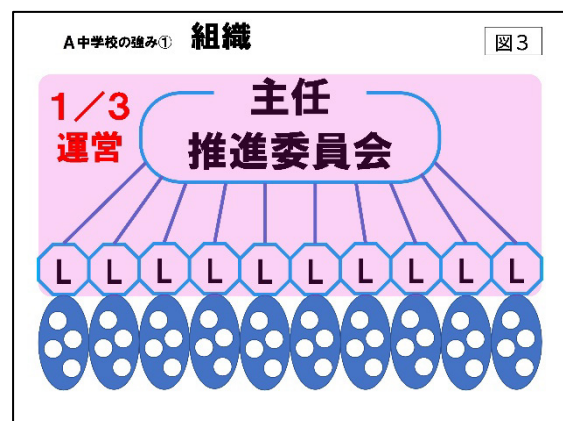
②同僚性を高めること

A中学校は、校内研究を通じて同僚性が高まっていますね。自分のよいところ「強み」、「弱み」もざっくばらんに話せています。このような人間関係を学校の中に基盤としてつくり、お互いに授業を見せ合うことが大事です(図2)。

◇A中学校の三つの強み

①組織

全体の3分の1が組織の運営側となる仕組みですね。研究主任が、したいことを発信した時点でそれを共通理解している人が少なくとも3分の1います(図3)。同じように理解できる人は、各グループ内にもいるので、早い段階で半分以上の賛同を得られます。学校の規模によっては、たくさん分掌をもっておられる方に頼みづらいという状況が生まれると思います。それなら、リーダーは循環制で行うとよいでしょうね。風通しのよい組織づくりをされていることが強みです。



②研究の仕組み

中学校の校内研究では、教科を窓口にするのは難しいので「A中スタンダード」を窓口にして研究を進めておられます。その中で、各教員が授業の一部を担当して研究しているような形です。一部分を担当しているのでそれぞれ異なる研究をしているようでしたが、授業参観を通し

て先生方の認識がだんだん変わって
いきました。A中学校の先生方は、授
業参観を通して自分のグループと隣
接するグループの内容の重なる部分
を考えられる姿が見られるように
なっていました。例えば、「きく」グ
ループのメンバーは「めあての設定」や
「かんがえる」グループとの重なり
の部分を考えておられました(図4)。ま
た、「振り返り」グループのメンバーは
「めあて」に立ち返る必要があること
に気付いておられました。教員一人ひ
とりが部分の改善をやっているよう
で、実は全体の改善をやったことにな
っていたのです(図5)。

大きくテーマを掲げてみんなで焦
点化していく方法もありますが、部分
に分けて最後には全体が見えるとい
う仕組みこそが二つ目の強みです。

③授業改善

「日々の授業を改善していく必要
がある」という声を基に、積極的な授
業参観(宝探しweek)を実施されまし
た。

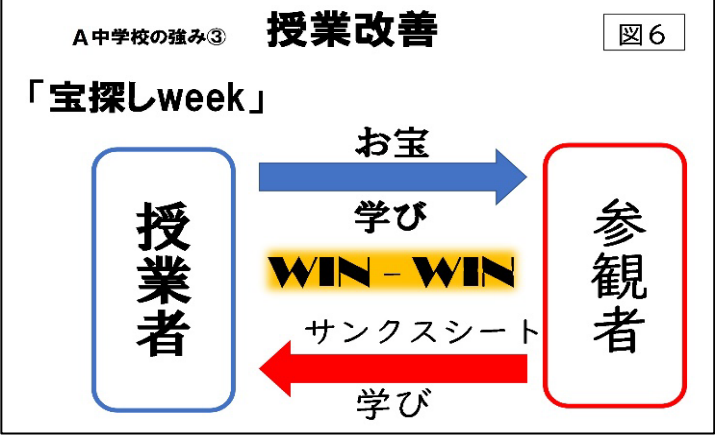
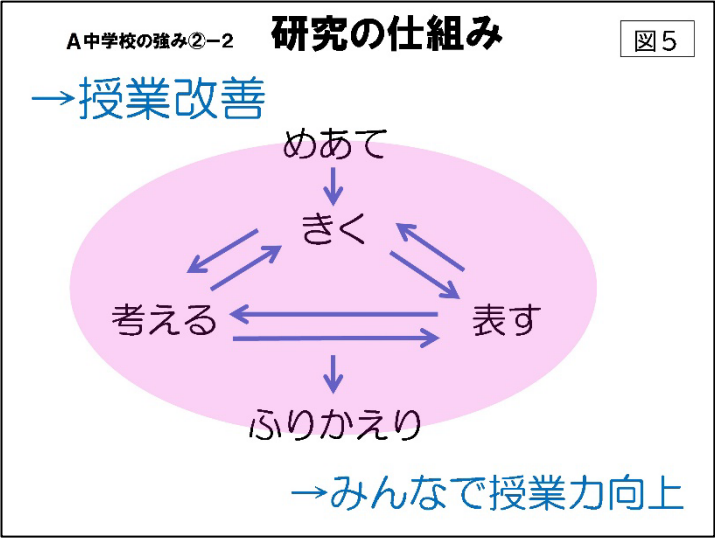
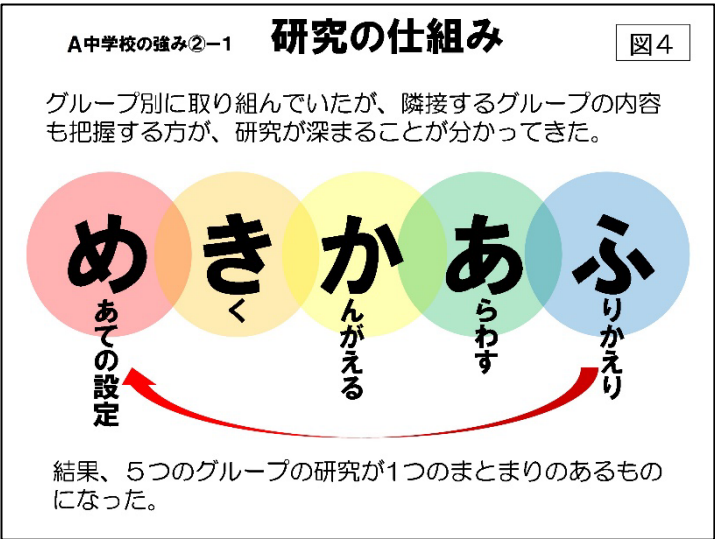
「宝探しweek」のコンセプトは、
「自由な参観の中で自分の知らな
かった新しいやり方や子どもの見方(お
宝)を教えてもらう機会をつくる」で
す。

参観させてもらった先生は、サンク
スシートなどで授業者にフィードバ
ックすることでお礼の気持ちも伝わるし、授業のどこがよかったのかどこがまだ改善できるのかを参観者から教えてもらうこともできます(図6)。こういった参観の仕組みをつくればみんなハードルを下げて取り組むことができますね。

◇おわりに

各校の先生方の願いや期待していることをつぶさに受け止め、日々の授業にかえっていったり、日々の子どもの変化や変容を捉えることにつながったりすれば、よい校内研究になると思っています。1学期の成果を校内の先生たちと分かち合い、2学期の校内研究につなげてほしいです。

(図1～6は楠見副校長が提示して下さった資料を基に研究員が作成したものです。)



◇はじめに

今年度の研究で昨年度までとちがうところは、研修と研究をすみ分けているところです。研修とは、これまでの研究を学んで習得・活用することです。それに対して、研究は、探究・発信までいかないといけません。ということは、今日のプロジェクト研究会では、A中学校のビデオを見て、「この取組を真似してみよう」ではだめで、それを基にどう研究を作っていくかという視点をもつことが大事になります。



◇A中学校での取組を自校での取組に

今回のグループワークは、これまでの2年間のプロジェクト研究の成果が凝縮されていて非常に分かりやすかったと感じました。そして、楠見副校長には、そのポイントを整理していただきました。そこで、研究委員のみなさんには、2年間のプロジェクト研究の成果を踏まえて、小学校種、小規模校、…多様な状況である県内の学校に発信していくために、それぞれの学校の校内研究をつかっていっていただきたいと思います。つまり、A中学校の取組を自校でやってみてもうまくいかなかったけど、こんな工夫や改変をしたら、うまくいきましたという提案をしていただきたいです。例えば、A中学校での取組を参考に、我が校のスタンダードづくりから始めてみようというのでもよいと思います。また、A中学校のようなグループリーダーが学校で複数人いたら、当然、学校は活気づきます。そこで、管理職とも話し合い、組織としてグループリーダーをつくるための取組を考えてみるのもよいと思います。他にも、ビデオでの取組を参考にして、取り入れられる部分に取り組み、改変していってほしいです。

今はリーダー1人を育てたらよい時代ではなく、研究主任を含めた研究チームをどのように組織して、どう運用するのが求められています。効率化や働き方改革も合わさり、グループ協議の中で話題にも出ていたG-OJTなどの小集団を活用して、研修していきましょうという流れになってきています。ところが、何もかもを小集団化していけば、全体としての共有、確認をどうするのかという課題が出てきます。先ほどのグループ協議でも同じ課題が挙げられましたし、A中学校の動画では、解決策として、グループリーダー同士の話し合いを通して、隣のグループの成果を情報共有して全体としての途中経過や方向性をフィードバックする取組が紹介されていました。校内研究のDX化で実践するのも一つだと思います。うちの学校ではこんな風にして校内研究で使いましたというのを発信する方法もあります。

校内研究の活性化の成果は、子どもの姿を通して見取るべきではないかということの方が昨年度の研究の課題として挙げられています。そこで例えば、事例的にでも子どもの姿から見取っていけるとよいでしょう。例えば、教師の関わりが変化し子どもが変わったという事例があったとします。その教師の変化の影には「授業アップデートシート」の活用も見られるかもしれません。ツールと教師の手立てをつないで、その成果が子どもにどうかえているのかということ丁寧蓄積、分析するというのもよいと思います。ツールを活用して100%成果を出すということは難しいので、ツールの意味をしっかりと理解した先生の変容を捉え、授業や子どもの変容とのつながりを物語として表現していけばそれはエビデンスになります。

研究委員のみなさんの振り返り

○第3回プロジェクト研究会の振り返り。

- ・ A中学校の実践を見せていただいて、これをどのように本校に取り入れることができるか考えながら研究会に参加することができました。
- ・ 授業を公開する手立て、自分事として捉える仕組みを少しでもつくっていきたいです。
- ・ A中学校の校内研究を見たり、協議をしたりする中で、改めて自身や自校の強みや課題を再確認することができました。
- ・ 1学期の自分の学校の校内研究の取組を振り返り、また、いろいろな先生方の取組を聞く中で、課題点がたくさん見つかり、2学期の校内研究に今回考えたことを生かしていきたいと思います。
- ・ A中学校の実践から、自校でできることを考えることができました。また、他校の取組から、共通した課題や新たに取り入れることができる内容について再検討することができました。

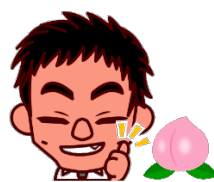
○第3回プロジェクト研究会での学びを自校の校内研究会でどのように生かしたいですか。

- ・ 小グループを編制して、個別の課題について話し合う場を設定していきたいです。それによって、研究の学びと個々の日々の実践をつなげていく機会をもちたいです。
- ・ 授業公開の仕組み、リーダーの活用(こまめに時間を取る)方法を考え、実践していきたいと思います。
- ・ 研究授業や全体での公開授業のつくり方やその前後の研究会にばかりウエイトを置いて校内研究を考えていましたが、事前の取組や事後の日々の授業の改善が一番大事であると感じました。
- ・ 校内研究を通して、先生方、子どもたちがどのように変わっていくか、そのこともしっかりと見ていき、研究につなげていきたいと思います。
- ・ 2学期以降に校内研究として取り組める実践を考え、夏季休業中からできることをお伝えしようと思います。まずはアップデートシートを確認し、自分自身の課題をもってもらいます。その内容の共通している先生同士でグループを組んでみることを学校に戻って考えます。

第3回プロジェクト研究会を終えて、研究員の思いと今後に向けて

今回のプロジェクト研究会では、A中学校の実践に学び、各実践校で校内研究を活性化させていくためのポイントを整理していただきました。研究委員のみなさんは、自校の実態を思い浮かべながら、整理したポイントを活用する手立てを考えてくださっていました。校内研究を活性化させるため、自ら課題を見つけ、課題解決の手立てを主体的に探究しておられる姿は、各校の先生方の模範となる姿であると感じました。

早いもので1学期が終わり、夏季休業中もお忙しい日々を送られることとは思いますが、1学期の取組の成果と課題を今一度、校内の先生方と共有していただきたいと思います。そして、2学期以降の校内研究がますます活性化していき、その成果が子どもたちの豊かな学びにつながることを心より願っています。



研究員 いぬます けいご 稲益 圭吾



研究員 しまうち ゆうしょう 島内 佑祥

「校内研究実践」レビュー

記入日 7月7日(金)

(部会) 実践者()

【校内研究を通して目指す教員の姿】

- ・ 自分の強みと弱みを持ち、自分の言葉課題を言定する。
- ・ 算数材料の学習を通し、自ら考え表現できる子どもを育成するための授業改善

【校内研究で目指した教員の姿】 (月 日 時点)

- ・ 今年度の校内研の方向性を理解する。
- ・ 自分の強みと弱みについてふらふらしたり知りたがる。

【具体的な実践内容】(実践期間…)

- ・ 6/14 校内研究会(授業研究、学年部研究会)、事後授業、研究会
- ・ 授業アップデートシートの言定入 → 共有フォルダ
- ・ 校内研通信の発行
- ・ 授業を見に行く(2回)

【実践の成果と課題】

教員の具体的な学びの姿	成果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業、研究会を通しての話し合い 共通実践することを共有 授業の困り感、大切にしていることの共有 G-OJTとコラボした取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有 ・ 授業をした先生の お礼
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研通信 今年度の方向性とテーマ、研究会での内容を共有。強みと弱みの他者発信。 ↳ サクシート 	<h3>課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分ごと」として捉える ・ 共有したことも、どう実践していくか? <p style="text-align: right;">夏休み 学習研 アップデート いん けん</p>

★★★★★★★★★★★★ 改善策 ★★★★★★★★★★★★★★

☆次の実践で目指す教員の姿

- ・ 2学期の自分の言葉課題を明確にし、実践する姿

☆次の実践内容 (実践期間… 夏休み)

- ・ アップデートシートの強みと弱みを再検討し、自分の言葉と具体的に実践できることや手立てを考える。→ グループ化、話し合いに活用してみる

子どもの姿

どういふ子? 学かの低い
・ 発言しないう。 → それぞれ
グループで
話し合う

「校内研究実践」レビュー

記入日 7月7日(金)

(部会) 実践者()

【校内研究を通して目指す教員の姿】

楽しんで校内研究に参加する。

【校内研究で目指した教員の姿】 (7月7日 時点)

今年の研究に主体的に参加しようとする姿。自分の課題を把握し、研究から
 ↳よへのつどやりこえる。 実践に生かそうとする姿

【具体的な実践内容】 (実践期間...)

- 自己分析ふり直しシートを作成。 ○研究通信の発行。
- 7-1ドパ2年形式をとり入れる。 ○OJTの活用 ○研修後フォローアップ。

【実践の成果と課題】

教員の具体的な学びの姿			成果
	成果	課題	
自己分析シート (個)	○自己分析 ↳Y11の課題見えた	○負担に思う教員 ふり直しの時間確保	○教員同士のつながりを生むことのできた ○個人の課題設定ができた ○学びの共有、ふり直し
研究通信	○共通理解が図れる ↳時間短縮。 ○学年毎に集めていく◎	○時間をとるのかわりに (作成の)	
7-1ドパ2 (揃)	○色々な学年の意見をきくこと → 学びのふり直し	○時間の問題 ○最後のまとめ、 ↳つみ上げ	
OJT	○研究現点視点の共有		課題 ○個人の学びにはおとにみえていい。 ○時間のかわり。

★★★★★★★★★★★★★★ 改善策 ★★★★★★★★★★★★★★

☆次の実践で目指す教員の姿

研究で学んだことを個人の日々の実践に生かそうとできる姿

☆次の実践内容 (実践期間...)

○個別の課題ごとに10分見たい抽出児童ごとにグループ編成をする。 → それで個々のふり直しや学びを共有する。

○2学期、とてかわりに宝エパレワークを設定。互いに発問を見合う。
 ↳学びを深める。

★宝エパレワーク。

★各クラスの児童の変容をみる。

★個別の課題をもとにグループ編成

↳成果と課題

「校内研究実践」レビュー

記入日 7月7日(金)

(部会) 実践者()

【校内研究を通して目指す教員の姿】

。自ら進んで、〈研究の視点〉の換乗を考へ、実践す。

【校内研究で目指した教員の姿】 (7月7日 時点)

今〜6月までは〈研究の視点〉の換乗を公開し、学研す。

【具体的な実践内容】(実践期間…)

- 。6月、公開換乗強化月間であり「換乗公開」
- 。6月の頭、学年調査の内容でアンケートを生徒より分析をスタート
- 。市の訪問の際(社会科の換乗)から自分の研究の視点はどの方向に傾いたか。

【実践の成果と課題】

成果
<ul style="list-style-type: none"> 。6月の換乗の話し合いが授業に反映し見やすくなった。「換乗公開シート」が 。次回校内研で生徒アンケートを分析し、方向性が分かった。
課題
<ul style="list-style-type: none"> 。換乗員以外の先生、公開しにくい他人事への対応。 。再度、教師の研修量を増やす程度に換乗公開の役割を付与。

教員の具体的な学びの姿

- 。公開換乗を通じて「換乗参観シート」の交流が見られた。
- 。若手・先生への積極的な公開換乗があった。
- 。GWでの協業で話し合いの姿があった。(訪問の際)
- 。生徒のアンケート(声)の内容が職員室で少なかった。

〈指導助言〉・校内研主任の呼びかけで

- 。自分ごととして(換乗) 自己決定、自己存在感、他者感
- 。日、換乗の学び… 乗(2人2人で)
- 。同僚性の高まり(換乗、課題の共有) 手紙

①組織 ②役割

- 。GW換乗対策、GW換乗対策
- 。GW換乗対策
- 。GW換乗対策

GW換乗対策

改善策

改善策

☆次の実践で目指す教員の姿 (自律としてやり、自己存在感) 教師と生徒(視点)

公開換乗の仕組みをわかりやすく、動かしやすく、公開換乗を促進

☆次の実践内容 (実践期間… ~12月(2学期))

- 。11-12月の活用方法(役割を意識させた)
- 。生徒の姿での分析・協業。(公開換乗を通じて)

「校内研究実践」レビュー

記入日 月 日()

(部会) 実践者()

【校内研究を通して目指す教員の姿】

研究を自分ごととしてとらえて、研究に主体的に取り組む。

【校内研究で目指した教員の姿】 (月 日 時点)

自身の授業の強みと課題を見つける

【具体的な実践内容】(実践期間… 5月下旬～) 授業に他の先生から学びを取り入れる (Thanks ert)

授業アップデートの活用、…月曜の職員打ち合わせ後の約5分間を自分の時間とした(2~3組1日)
他の教員の授業を参観する。各教員が入力した内容を次の打ち合わせで公開、印刷室に貼る
別で貼り回す。

【実践の成果と課題】 配布済みプリント、研究通信、7-11に貼る。町で研究会を開催して

教員の具体的な学びの姿

5月31日 特支の授業研、

- ・事前に参観のめあてを設定
- ・研究会後、に学んだことを入力。

6月2週目 ~ 授業参観推進は当初予定通り

6月26日 初任研 授業研(並徳)

成果

授業研後のシート入力
ほとんどの教員がした。
入力する時間を設定した
ほか
他の教員が入力したシートを
見られるようにした(共有プリント)

入力している内容は
より具体的な
もの

課題

・それを入力しない人が
担任を担っている教員の
モチベーションを上げた。
・この振り返り、進捗がわからない
(あかぬ)人も。

時間がかか
るとは
自分
でか
次にやる
後上げ

★★★★★★★★★★★★★★ 改善策 ★★★★★★★★★★★★★★

☆次の実践で目指す教員の姿

学んだことを日々の授業に生かす。

☆次の実践内容 (実践期間… 7月下旬(夏休み中))

アップデートの内容をもとに、自身の課題や取り組んでいることと共有する。
→それに基づいて、2学期からの実践や研究、公開授業を考えた。

研究・公開授業単発ではなく、それと日々の授業とを結びつけて実践する

「校内研究実践」レビュー

記入日 月 日()

(部会) 実践者()

【校内研究を通して目指す教員の姿】

同じ教員同士で話し合い、お互いに学びあう。授業改善の取り組みを推進する。

【校内研究で目指した教員の姿】 (月 日 時点)

子どもたちが主体的に学び、授業の質を向上させる。

【具体的な実践内容】 (実践期間...)

グループワークの決定 公開授業の企画
授業公開期間 授業評価アンケートの実施

【実践の成果と課題】

教員の具体的な学びの姿	成果
<p>グループワーク・個人の研究テーマを設定し、自分なりに取り組む。</p> <p>授業公開期間中のグループワークの活用。</p> <p>授業公開後の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の意識が向上している。 グループワークの活用が進んでいる。
<p>個人研究の進捗が遅い。</p> <p>授業公開後の振り返りが不十分。</p>	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人研究の進捗を促す。 振り返りの質を高める。

★★★★★★★★★★★★★★ 改善策 ★★★★★★★★★★★★★★

☆次の実践で目指す教員の姿

子どもたちの学びを促す。授業改善の取り組みを推進する。

☆次の実践内容 (実践期間...)

授業評価アンケートの結果を自己分析を行う。

個人研究の進捗を促す。授業公開後の振り返りを徹底する。